

指導資料



鹿児島県総合教育センター

特別支援教育 第158号

—小，中，特別支援学校対象—

平成22年4月発行

知的障害のある児童生徒の言語活動の充実

今回の学習指導要領改訂において、特別支援学校についても、小・中・高等学校と同様に、児童生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語活動の充実が求められている。

障害のある児童生徒にとっても、自分の考えや気持ちをいろいろな手段で表現する活動が大切である。そこで、各学校においては、今までの授業を振り返り、より意識的に言語活動を取り入れた授業づくりに取り組むことが必要である。

そこで、本稿では、知的障害のある児童生徒の言語活動の基本的な考え方や言語活動を充実させるための言語環境や学習指導の進め方の工夫について述べる。

1 知的障害のある児童生徒の言語活動の基本的な考え方

(1) 言語の果たす役割

人は、言語によって考え、人とかわかり、感じたことや自分の思いを言語でまとめていく。すなわち、言語は、論理的思考だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤である。

周りの人とかわかるためには、コミュ

ニケーション能力を高めることが必要である。また、相手を理解しお互いを大切にしようという人間関係を築くためには、豊かな感性・情緒をはぐくむことが必要である。

このようなことから、知的障害のある児童生徒の言語に関する能力を高めることは、児童生徒が周りの人たちと豊かにかかわりながら充実した生活を送る上で、とても大切であるといえる。

(2) 言語活動の充実を図るための配慮事項

知的障害のある児童生徒の言語活動を充実するためには、認知や言語にかかわる知的能力の状態や他人との意思の交換が苦手であるといった知的障害の特徴を理解しておくことが必要である。

特別支援学校学習指導要領解説では、知的障害のある児童生徒の学習上の特性として以下のようなことが挙げられている。

- 成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないこと。
- 学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいこと。
- 実際的な生活経験が不足しがちであることから、実際の・具体的な内容の指導が必要であり、抽象的な内容の指導よりも効果的であること。

そこで、これらの学習上の特性を踏まえて、言語活動を充実させるためには、児童生徒の「表現しよう」、「伝えよう」、「伝え合おう」という意欲を高めさせることから始めなければならない。そのためには、児童生徒の新しい気付きや驚き、喜びなど心を動かすような豊かな体験活動の機会を設けることが大切である。児童生徒の体験が豊かであればあるほど、そこから展開される言語活動は豊かになり、児童生徒の更なる意欲の高まりを期待することができる。

また、児童生徒が身に付けた言語に関する能力を、実際の生活の中で活用できるようにすることも必要である。そのためには、生活

単元学習等の指導を中心に、各教科や領域と関連させながら、学校の教育活動全体の中で、実際の生活を想定した言語活動を、児童生徒の実態を踏まえて、繰り返し指導していくが必要になる。

2 言語活動を充実させる言語環境の工夫

障害のある児童生徒が生活する上では、補助的手段等の環境因子の影響が大きい。言語活動においても児童生徒の実態に応じて言語環境を整えることが大切である。言語環境を整える上での工夫について、物的環境と人的環境に分けて表1に示す。

表1 知的障害のある児童生徒の言語活動を充実させる言語環境の工夫

物的環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内や教室の掲示物、板書の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい表記であると同時に、児童生徒の実態に応じた分かりやすい語句を使う。 ・ 文字だけではなく、児童生徒の実態に応じた絵やシンボルマークなども使う。 ・ 地域生活や社会生活などで、目にする機会の多い文字やマークなどを取り入れる。 ○ コミュニケーション手段の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の言語能力や障害の状態に応じて、話し言葉以外の身振りやサイン、シンボル、コミュニケーションボードなどの補助・代替手段を準備する。 ・ 児童生徒が安心して話したり書いたりして表現することができるように、発表話型や例文の短冊カードなどを準備する。 ・ 学校外でも、適切なコミュニケーション手段を活用できるように、買い物学習のような体験活動の機会を設ける。
人的環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の言葉掛けの工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒のモデルとなるように、正しい言葉遣いや状況に応じた表現をする。 ○ 教師の児童生徒へのかかわり方の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒が安心して話をしたり表現したりできるように、日ごろから教師と児童生徒、児童生徒同士の好ましい人間関係をつくる。 ・ 学校生活の様々な場面で児童生徒にかかわり、その楽しさを十分味わえるようにする。 ・ 児童生徒の伝えようとするペースに合わせて、言葉や表現を大切に、認めたり褒めたりする。 ・ 児童生徒や教師の行動や気持ちを言語化したり、発言を広げたり補ったりして児童生徒が新しい言葉を身に付けられるようにする。 ○ 児童生徒同士がかかわる場面の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な場面をとらえ、友達の前で発表する機会を設ける。 ・ 児童生徒同士で伝え合うことができるように、小集団を構成し、自分の気持ちや考えを伝えるだけでなく、相手の話をしっかりと聞く場面を設けたり、協力して活動できるような共通の話題や課題を準備したりする。

3 言語活動を充実させる学習指導の工夫

授業を進める際に、児童生徒の実態を踏まえて、言語活動を意識した活動を意図的に組み込む。例えば、授業の終末に、児童生徒が自分の活動を振り返り、そのことについて伝え合う場を設けることで、児童生徒のコミュニケーション能力や考える力、伝えようとする意欲を更に高めさせていくことができる。

具体的には、以下のような工夫が考えられる。

- ① 児童生徒の興味・関心を踏まえて、伝えたいと思うような体験活動を計画する。
- ② 活動後、写真や絵などの手がかりを準備し、児童生徒とやり取りをしながら児童生徒の伝えたい言葉を引き出す。
- ③ 児童生徒の表現した言葉を基に、内容を広げたり補ったりしながら、伝えたいことをまとめたり書いたりさせる。
- ④ 発表の際、話し言葉だけではなく、文字や絵など様々な表現方法を選択させる。
- ⑤ 周りの人たちと伝え合う場を設けて、発表したり感想を返したりするなど、その体験やその時の気持ちなどを共有できるようにし、活動が深まるようにする。

4 実践例

次は、小学校の知的障害特別支援学級の生活単元学習における実践例である。

- (1) 単元名 「もちつき大会をしよう」
(2学級合同学習、児童10人)
- (2) 目標

- もちつきや準備の流れが分かり、見通しをもって活動に取り組み、楽しも

うとすることができるようにする。

- もちつきの体験活動を通して、季節の変化や年中行事への関心を深めさせるとともに、友達と協力させたりして、活動することの喜びを味わわせることができるようにする。
- 話合いやまとめの発表を通して、人の話をしっかり聞き、自分の思いを分かりやすく伝えることができるようにする。

(3) 指導計画（全7時間）

次	時間	主な学習活動
一	1	○ もちつき大会の学習計画を立てる。
二	1 本時 1	○ 材料や手順を調べたり、飾りを作ったりする。 ○ 買い物に行く。
三	3	○ もちつき大会をする。
四	1	○ 楽しかったことを絵や文にまとめて発表して振り返る。

- (4) 言語活動を充実させるための配慮事項
 - ア 児童同士がかかわり合ったり伝え合ったりすることができるように、3～4人でのグループ活動の場面を設定する。
 - イ 発表の場面では、自分の伝えたいことを分かりやすく表現できるように、児童の実態に応じて、絵や写真、具体物、発表話型のカードを準備する。
 - ウ 聞く態度を身に付けさせるため、発表している人に体を向けさせたり、発表についての自分の感想を述べさせたりする。
 - エ 活動への見通しをもったり、活動したことを振り返ったりできるように、一人一人の実態に応じて、写真や絵を載せた「もちつきブック(ワークシート)」を準備する。
- (5) 本時の目標

- 前時で立てた計画を基に、「飾りを作る」、「材料を調べる」、「手順をまとめる」の3グループに分かれて、もちつき大会の準備をすることができる。
- グループごとに作ったものや調べたこと、まとめたことを発表し、お互いに必要な準備について理解することができる。

(6) 本時の実際

過程	主な学習活動	教師の指導
つかむ・みとおす (10分)	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習について知る。 もちつき大会の準備をしよう。 ① 室内の飾りづくりをする。 ② 材料を調べる。 ③ 手順をまとめる。 3 学習の見通しをもつ。 ① 飾り付けグループ、材料調べグループ、手順調べグループに分かれる。 ② グループごとに役割を分担して活動する。 ③ グループの活動をみんなに発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習計画表を基に、前時までの学習を振り返らせるとともに、本時の学習活動について確認させる。 学習意欲を喚起するために、材料や飾りなどの具体物を提示する。 前時に作成したもちつきブックの計画表やもちつきの写真を基に、本時の学習について確認させる。 学習の見通しをもつことができたか、一人一人に問いかける。 もちつきブックにメモをとらせたり、大事なところに線を引かせたりする。
活動する (25分)	4 グループに分かれて活動する。 (1) 飾り付けグループ ・ 紙に丸を書き、線に沿って切る。 ・ 色を塗る。 (2) 材料調べグループ ・ 必要な材料と量を調べる。 (3) 手順調べグループ 「絵や写真を手がかりにもちつきの順序を考えながら文にまとめる。」 5 グループ発表の準備をする。 (1) 飾り付けグループ ・ 作った飾りを見せながら発表の練習をする。 (2) 材料調べグループ ・ 調べた材料と量を模造紙に書いて発表ポスターを作る。 ・ ポスターを使いながら発表する練習をする。 (3) 手順調べグループ ・ 調べた手順ごとに、カードに絵を書いたり写真をはったりする。 ・ カードを1枚ずつ見せながら発表する練習をする。 6 グループで活動したことをみんなの前で発表し、お互いに材料や手順、飾り付けについて知る。	<ul style="list-style-type: none"> 児童が話し合いながら、できるだけ一人で課題に取り組めるように、もちつき大会計画ノートを手がかりにさせる。 活動への安心感をもたせるために、活動につまずいたときは、いつでも教師に質問してもよいことを知らせる。 グループごとに、児童の実態に応じた具体物や手順カード、補助具などを準備する。 絵や写真、具体物を用いて、発表すると聞き手が分かりやすいとともに、話し手も発表しやすいことを知らせる。 協力して発表できるように、グループでの役割分担をさせる。 児童の実態に応じて、発表することをメモに書かせる。 発表することに困難を感じている児童には、発表話型カードを参考にさせる。 必要に応じて、児童の言葉を広げたり補ったりする。 発表する態度と聞く態度について、カードを示しながら確認する。
ふりかえる (10分)	7 学習を振り返り、お互いによかったところを発表する。 8 次時の学習について知り、意欲を高めるとともに今後の学習への見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの発表のよいところを賞賛する。 買い物学習に行くことを知らせ、準備するものを考えさせておく。

※ ゴシックは言語活動に関連する活動、指導・支援

※ この実践例は、薩摩川内市立可愛小学校 永里渉子教諭、元田順子教諭の実践を参考に作成した。

以上、知的障害のある児童生徒の言語活動の充実のための工夫について述べてきた。

言語活動を充実させることで、知的障害のある児童生徒が、実際の生活の中で自分の考えや気持ちを、いろいろな方法で表現することができるような取組を期待したい。

【参考文献】

- 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』平成21年，教育出版
- 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)』平成21年，海文堂出版
- 高木展郎編集『各教科等における言語活動の充実』2008，教育開発研究所

(特別支援教育研修課)